

国立公園の自然解説や美化清掃活動を行っている“パークボランティア”の活動報告や、国立公園の管理を行っている環境省裏磐梯自然保護官事務所からのお知らせなどをお届けします。

## 1 パークボランティア活動レポート

### オオハンゴンソウ防除

裏磐梯地区のオオハンゴンソウは、過去に園芸種として導入され個体が定着し、生育地を拡大しています。五色沼や中瀬沼などの景勝地では、本来の生息地ではない植物(=オオハンゴンソウ)が景観を構成する要素として存在してしまう懸念が生じているため、防除活動を行っています。

！オオハンゴンソウは特定外来生物のため、生きたままの運搬禁止！  
・見つけたら、その場所の管理者や行政機関に相談  
・自宅で見つけた場合は、枯らしてから燃えるゴミとして処分



▲オオハンゴンソウの花と防除活動の様子。今年度は、8月末までに計7回実施しており、9月以降は2回程度活動を予定しています。

## 2 木道の改修工事を行っています/雄国沼湿原



環境省では、R4年度から3カ年かけて、老朽化に伴う木道の再整備を行っています。工事中は一部通行できない区間がありますので、ご注意ください。

※詳細はホームページをご覧ください  
([https://tohoku.env.go.jp/to\\_2024/topics\\_00119.html](https://tohoku.env.go.jp/to_2024/topics_00119.html))

## 3 野生生物の調査にご協力願います

雄国沼湿原において、ニホンジカの食害調査を実施しています。ニホンジカ等の野生生物を目撃した方は、休憩舎内の掲示板に情報をお寄せ下さい。



### 「紅葉・黄葉」

植物の種類によって、葉の色づき方が異なります。身近な木が紅葉するか、黄葉するか、はたまた緑のままか、じっくり観察してチェックしてみましょう

### 【重要なお知らせ】

## 裏磐梯ビジターセンターのリニューアルオープンについて

裏磐梯ビジターセンターは、令和5年10月から大規模な改修工事を行っておりますが、リニューアルオープンは令和7年4月頃を予定しています。ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

また、閉館期間中の仮事務所につきまして、秋期間はこれまでどおり裏磐梯物産館にて案内を行っています。冬季間の仮事務所につきましては、公式HPにて改めてご案内申し上げます。

## 予告：冬の講演会のお知らせ

冬に国立公園をテーマにした講演会を開催します。詳細が定まりましたら、公式HPやSNSで告知いたしますので、見逃さないようフォローしてお待ちください！



# 明りに集う虫たち

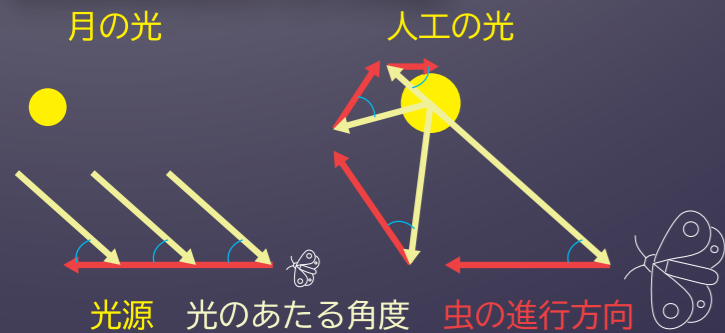
## 夜の電灯にて

夜、電灯の灯りには、虫たちとそれを狙うカエルやコウモリといった捕食者など様々な生き物が集います。どうして虫たちはわざわざ、食べられやすい、明るいところに集まってきてしまうのか不思議に思ったことはありませんか？

これは、虫たちが夜に飛行する際、月を利用してまっすぐ飛んでいる事が理由です。

普段、虫たちは月の光から一定の角度で飛ぶことで方向や高さを保って飛んでいます。街灯などの人工の光は光源までの距離がとても近いので、光源から一定の角度で飛ばうとすると、光源の周りをくるくると回りながら近づいていってしまいます。

灯りに集まる虫たちも、灯りが好きで集まっているわけではなく、結果として集まってしまっているだけなんて、なんだか少しかわいそうですね。



## ライトトラップとは

この、灯りに寄ってきてしまうという習性を利用した昆虫採集方法が「ライトトラップ」と呼ばれるものです。夜に行うので『ナイトトラップ』と言い間違われることもしばしばありますが、照明を使用するため、『ライトトラップ』といいます。

## 裏磐梯でライトラ

2024年8月24日に裏磐梯物産館の駐車場をお借りして約1時間のライトトラップ観察会を行いました。

最初に講師の先生より「なぜ、夜に昆虫は灯りに寄ってくるのか」「ライトトラップ仕組みと観察のねらい」「触ると危ない昆虫」の説明を受け…ライトを点灯!昆虫が来るのを待ちます

ライトを点灯して最初に訪れたのはモンスズメバチ! 日中に飛び回るイメージの強い蜂ですが、ライトトラップで夜でも観察できるとは驚きです。

その後も続々と小さなトビケラやガの仲間などが飛来し、ある程度名前の分かったものだけでも20種を超える虫たちを観察することができました。

参加した子供たちからは「この虫は触っていい?」「なんて虫?」と質問が飛び交い、昆虫を通して裏磐梯の環境を知ることができました。



## ライトラの注意

大盛況に終わった観察会ですが、この「ライトトラップ」を行う際にはかなりの注意が必要になります。

- ・土地所有者に許可を取る
  - ・ご近所に配慮する
    - 光や騒音が届かないようにしましょう
    - 虫たちが大量に集まります、ご近所トラブルにご注意
  - ・大量採集は御法度
    - 捕りすぎるとその地域で絶滅してしまうかもしれません
  - ・事前に下見をしよう
    - 暗くて周りが見えなくなります。崖や水辺など危険個所がないか明るいうちにチェックしましょう
  - ・野生動物に注意
    - 蜂やクマ、イノシシなどにも注意が必要です
- 実際にライトトラップを行う方がルールやマナーを守らなかったばかりに、「ライトトラップ」が禁止された地域や公園がいくつもあります。
- 子どもたちの自然観察の場を守るため、ルールとマナーはしっかりと守っていきたいところです。

## 自然解説員の巡視日記

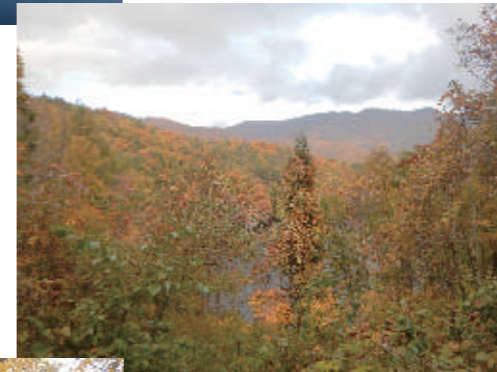
# 裏磐梯の紅葉

夏も終わりが近づき、紅葉のシーズンが近づいてきました。毎年この時期になると、多くの方に今の紅葉の状況や今後の予測をお問い合わせいただきます。もちろん自然の事なので予測はほとんどできず、現在の周辺の状況をお伝えするのがやっとです。今回はそんな裏磐梯の紅葉情報をお送りします。



裏磐梯の紅葉コレクション

▲2023年10月30日  
五色沼湖沼群 柳沼



2023年10月26日  
▼五色沼自然探勝路



▲2023年10月26日  
曾原湖畔探勝路



2022年10月27日  
中津川溪谷▶

裏磐梯で紅葉を見る際、最も注意すべきなのが標高です。磐梯山(標高1816m)や西吾妻山(標高2035m)の山頂付近から五色沼湖沼群のある標高800m付近まで、裏磐梯はおおよそ1000mもの標高差がありますが、紅葉はより寒い、標高の高いところから始まるため、一口に裏磐梯で紅葉が始まったといっても、見たいエリアが紅葉しているかは確認が必要です。

次に、樹種にも注意が必要です。裏磐梯の紅葉する樹種といえばウルシ、カエデ、サクラの仲間やダケカンバ、ナナカマドなど様々。樹種によって紅葉の時期が変わる他、同じ樹種でも日の当たり方などで時期がずれることも多々あります。

紅葉は日中、晴れの日が続いたうえで、夜間急な冷え込みがあると鮮やかに発色すると言われています。週間天気や過去の情報、現在の状況を見て、ピークを予想し、紅葉狩りに出かけましょう!

Welcome

ようこそビジターセンターへ

## チョウ類調査の研修会を行いました!

7月12日に日本チョウ類保全協会さま主催でチョウ類モニタリング研修会を行い、14名が参加しました。

チョウチョの仲間は、環境の変化にとっても弱く、人間では気が付かないような変化でたちまち数を減らしてしまったり、見られる種類がかわってしまったりしてしまいます。これは逆に言えばチョウの仲間を継続して調べ続けることで、その変化から、人では気が付かないような環境の変化を調べることができるという事です。

肝心のチョウの調べ方ですが、研修会では「トランセクト調査法」という手法を学びました。設定したルートを歩いて、見かけたチョウの種類と数を記録していくという調査方法です。研修会に参加された方々はチョウの見分けに苦戦されていましたが、「こんな世界もあると初めて知った」と皆さん楽しまれたようでした!

